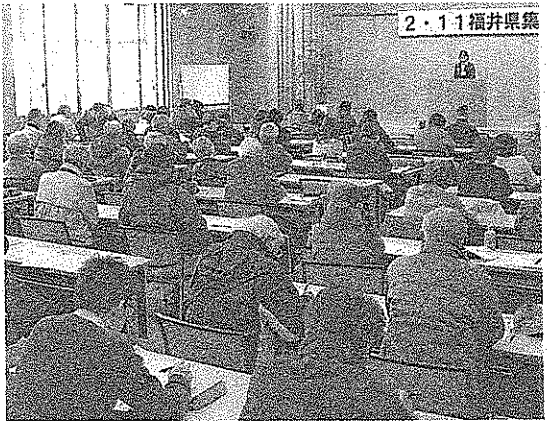


特定秘密法制定や集団的自衛権の容認

政権施策「想像力欠く」

「立憲主義」考える集い



安倍政権の危うさを訴える講演に100人が耳を傾けた＝福井市大手2丁目の県教育センター

建国記念の日に反対する集まりが11日、県教育センター（福井市大手2丁目）であった。特定秘密保護法の制定や集団的自衛権の容認といった安倍政権の動きに対して、立憲主義の観点から懸念の声があがった。100人が参加した。

100人参加「未来自らつくる」

開会あいさつに立った松浦義則・福井大名舎教授は、建国記念の日に反対する理由に①日本書紀にある神武天皇の記述は事実ではない②この神話は戦前の国体思想に利用された③建国を祝うのであれば現体制の出発点となった敗戦の日か日本国憲法ができた日がある「さわしい」をあげた。

彼谷環・富山国際大学准教授（憲法学）は「立憲主義から考える政治と人権」と題して講演した。安倍政

は「権力者に粹をはめるもの」と解説。改憲の動きにも「政権が変わることに憲法を変えるならば、権力へのチェックが機能しなくなる」と釘を刺した。

参加者も相次いで発言した。昨年11月に発足した秘密保護法阻止県連絡会は、これまでの集会やパレードの取り組みのほか、これからの学習会や署名活動の予定を発表した。シンガー・ソングライターの河合良信さんは「国に頼るのではなく、未来は自分たちでつくるもの」という意識で活動している」と語り自作の反原

権と歩調をそろえるNHK会長や経営委員への疑問から説き起し、領土の記述を強化する中学高校向け学習指導要領解説改定、原発への姿勢、沖縄・辺野古への米軍基地移設問題など次々と繰り出される施策を「国威発揚に教育を利用するもの」「相手へ思いを致すという人権意識と想像力が欠けている」と批判した。イギリス名誉革命やフランス人権宣言などを経て形成された立憲主義について

発曲を披露した。集会を主催した福井高教組の吉田智明さんは、立憲主義の大切さが教育現場では教えられていないとして

「立憲主義はまだ国民のものになっていない。地域や職場で学び合い広げていこう」と呼びかけた。

（下地 毅）

2/12 朝日